

ヴッパータール 研究所

持続的発展と成長を研究

概要

研究所の案内

ヴッパータール研究所とは

1991年の創立以来、ヴッパータール研究所は国内のみならず世界中の研究機関にとっても確固たる地位を築き上げてきました。気候、エネルギー、資源問題に関する議論において常に大きな影響を持っています。

ヴッパータール研究所は公益有限会社であり、所有者はノルトライン・ヴェストファーレン州です。同州の経済・技術革新・デジタル化およびエネルギー省が管轄を行っています。



ヴッパータール研究所の使命

ヴッパータール研究所は、自身の意義をインパクト性と実用性を追求した持続的研究を行うシンクタンクと捉えており、環境負担をかけず資源消費の少ない世界を形成するための変換プロセスをどう実現するかに焦点を当て、研究を行っています。

地球環境への過負荷防止に貢献するという目標に何より重きを置き、温室効果ガス中立性を保った資源消費の少ない社会というモデルを実現可能な形で構築し、提示しています。



科学による 変革

「大きな変革」を目指す研究

ヴッパータール研究所が研究するのは具体的な社会問題です。どうしたら変換プロセスをより良く理解できるのかを学び、目標や変換システムへの知識を研究を介して生み出すことで、変換プロセスの触媒として作用することを目指しています。この目標・システム・変換の3つそれぞれへの知識を合わせた物を、ヴッパータール研究所は「未来への知識」と名付けており、これを実現するコンセプトは主に現実のラボで生まれます。

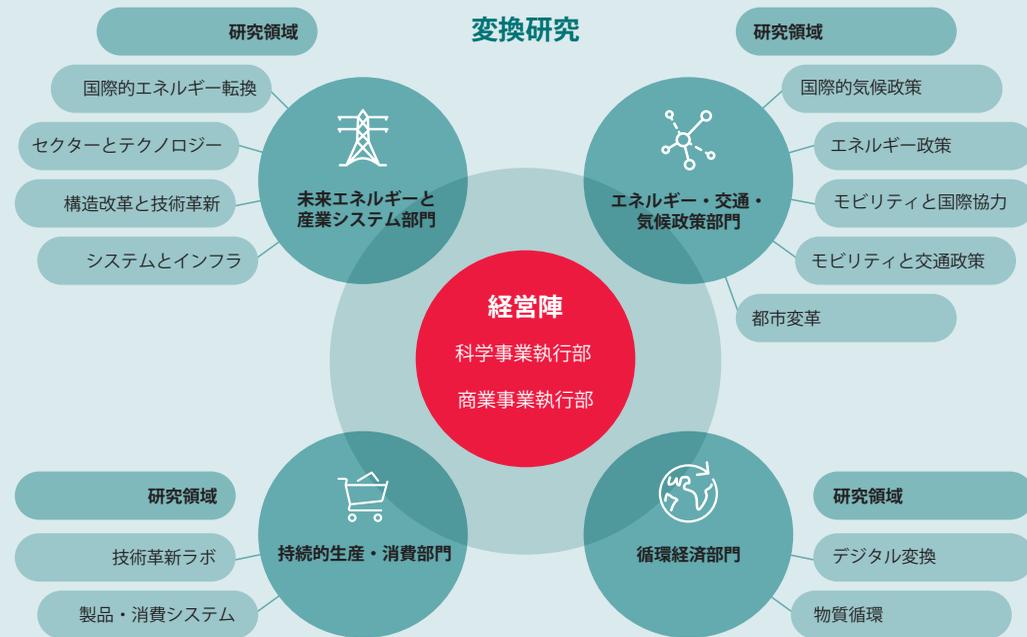
プラクティスパートナーと共にソリューションの開発とチェックを行い、必要に応じて調整していくことで、ヴッパータール研究所の研究が変換プロセスの一部となっていきます。

変革を目指す分野

持続的発展を目指した大きな変革は、多岐に渡る分野で生じています。ヴッパータール研究所が行う研究は、それぞれに特殊性や専門性のある機関・組織を有する7つの変革分野 - エネルギー転換、資源転換、栄養転換、都市転換、モビリティ転換、産業転換、そして豊かな社会と消費転換 - と、その背後にある中心的研究課題に集中しています。ここで研究分野を超えた共通のテーマとしてとなるのが構造変換とデジタル化であり、とりわけデジタル化をどの程度まで持続的に形成し、変換プロセスをサポートできるかが大きな課題です。

ヴッパータール研究所は4つの部署に分かれており、その中でこれらの分野と課題分野に沿って13の研究領域が組織されています。

研究組織



中心となる 研究課題

エネルギー転換の形成



100%が再生可能エネルギーで賄われるエネルギーシステムへの変換は、どのようにすれば成功するのでしょうか。これにはエネルギー効率の向上、再生可能エネルギーの拡張、そして産業生産分野での新たなプロセスの生成という3つが理的に共働しなければなりません。ヴッパータール研究所は、それに欠かせない確実かつ実現可能なソリューションを、政治や企業で決定権を持つ方々のために開発しています。

温暖化防止と原料産業の両立



エネルギー大量消費型産業、とりわけ鉄鋼生産や原料科学、アルミニウム産業、ガラス製造、製紙、セメント生産といった産業は、地球上での温室効果ガス排出に大きな部分を占めており、その排出量は増加し続けています。新しいプロセスや、ディストラプティブ技術の一部導入だけでなく、温室効果ガス中立性生産構造への移行には、大量のグリーンエネルギーや代替エネルギー担体、水素といった燃料が必須です。そのため、こういった産業・エネルギーシステムの再構築は共同で取り組まなければならない、ヴッパータール研究所はこのテーマを企業や政治、市民社会にとっての重要な社会問題と考えています。これをどのようにして成功に導くか、必要なバリューチェーンに沿ってどういった変革が欠かせないのか、また様々なセクターにおいて専門的な革新システムを形成しなければならないのか - そのソリューション追求がヴッパータール研究所の中心的課題です。

資源循環の維持



ドイツ国内だけでも毎年4億トン以上の廃棄物が発生しています。ドイツとEUは機能的循環経済への総合的変換を目標に掲げており、可能な限りでの廃棄物の発生防止や製品・部品の長期使用、どの廃棄物も潜在的資源と見なすことを目指していますが、そこで生じる課題や問題点はまさにヴッパータール研究所が行う研究の中核をなすものです。

モビリティの見直し



自動車や飛行機といった交通による影響は、事故の危険性だけでなく気候変動や大気汚染、土地の消費にも及んでいます。しかし人間のモビリティも貨物輸送も、今までとは違う別の形へ変えることが可能です。これには個人による自動車使用の削減、インテリジェントな公共交通機関の提供、自転車利用者や歩行者にとって魅力的なインフラ、省エネかつ効率的な交通手段、気候と環境に優しい燃料といった構成要素が重要となります。そのためヴッパータール研究所では、新たな問題を生じさせることなくいかにシステム変換を成し遂げることができるか、そして国内でも国際レベルでもどういった政治的フレームワークが必要となるのかを分析し、世界中の自治体や都市でモビリティの見直しを手助けしています。



気候変動の抑制

化石燃料時代を終わらせ、地球温暖化を1.5°C以下に抑えつつ、気候に優しく適切かつ持続的な経済方式を推進する – その実現には地域社会や国内だけでなく、国際レベルで多くの人々の尽力が不可欠です。ヴッパータール研究所はそれに必要な政策手段を分析し、経済・政治・市民社会それぞれのための統合戦略を開発しています。



デジタル変換

デジタル技術は持続的発展の実現にとって数多くの新たなチャンスをもたらす一方、端末機器とインフラによるエネルギー・資源消費の増大はエコロジーにとって懸念事項となっているため、新たな問題を生じさせず持続的な未来へ寄与できるように、デジタル変換には能動的かつ理知的な運用が求められています。ヴッパータール研究所は、現在進行しているデジタル変換が社会・経済・政治の持続的発展へと方向づけられるよう尽力し、全体的な観点からデジタル技術と製品開発、インフラ、そしてソリューションの機能性と相互作用について評価を行っています。

豊かな生活と消費、ライフスタイル



持続的な発展を成し遂げるには、効率性の高さと再生可能エネルギーへの転換だけでは不十分です。これに並行して、新たな消費モデルや持続的なライフスタイルを、豊かな生活の発展と資源消費の分離を手助けするインテリジェントビジネスモデルに組み込まなければなりません。ヴッパータール研究所は、持続的変換への有望な道筋として社会技術的イノベーションを追い求めると同時に、高いライフクオリティを提供しながらグローバルでもローカルでも持続的な生産を行うには、製品やサービスがどのように形成されているべきかについて重点的に研究しています。



都市変換とアーバニティ

人工的要因により発生した世界の温室効果ガスの80%は都市部で検出されています。資源の大部分が都市部で使用されているのは、世界の人口の約半分が都市で暮らしていることに起因しています。都市部は変換の中心地であると同時に社会的変化の出発点でもあるため、ヨーロッパレベルにおいても国内や自治体レベルにおいても、適した政治的フレームワークによるサポートが不可欠です。ヴッパータール研究所は、環境にとって持続的かつ将来性のある都市への変換に必要な要素について研究を行っています。

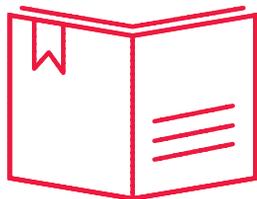
ヴッパータール研究所の 統計*



50

の現在進行の
学術論文
プロジェクト

200
の学術出版



3,000
のメディア報告



3,000
の論文引用**

500

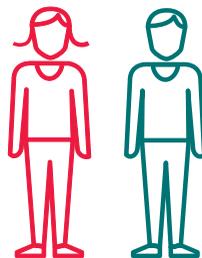
の政治・経済・
科学 に関する講演



2000万
ユーロの
売り上げ



世界70カ国以上で
170
のプロジェクト



250

人の職員、
女性の比率は
50%以上

40

の講義とゼミ



* 各数値は四捨五入または年平均値

** グーグルスカラーでのトップ・テン・リサーチャー

Wuppertal Institut

für Klima, Umwelt, Energie gGmbH (ヴッパータール研究所)

編集: クリスティン・ハスケン コミュニケーション主任 (Christin Hasken)

所在地: Döppersberg 19

42103 Wuppertal · Germany

電話:(国番号 +49) 202 2492-0 · Fax -108

メール: info@wupperinst.org

Büro Berlin

im ProjektZentrum Berlin der Stiftung Mercator (ベルリン事務所)

所在地: Neue Promenade 6

10178 Berlin · Germany

電話:(国番号 +49) 30 28 87 458-10 · Fax - 40

メール: buero.berlin@wupperinst.org

ホームページ: wupperinst.org

こちらも参照ください:



XQ4

www.blauer-engel.de/uz195

この印刷物はブルーエンジェルの認証を取得しており、
(Code XQ4) と気候中立性 100%回収古紙で印刷されています。